

### 「山東博物館の国宝 紅陶獸形壺（コウトウジュウケイコ）」

国際交流員 郭 映雪（中国）



皆さん、この可愛らしい物、何だと思われませんか？この作品は山口県にゆかりのあるものですが、どのようなつながりがあるかご存知ですか？今回は、この作品と山口とのつながりについてご紹介します。

この器の名前は紅陶獸形壺（コウトウジュウケイコ）です。現在、山東博物館に収蔵されています。これは、中国山東省大汶口（ダイモンコウ）時代の典型的な器の一つとされ、1959年山東省泰安大汶口（タイアンドンコウ）遺跡から出土しました。山東博物館の十大鎮館（ジュウダイチンカン）の国宝の一つとされています。壺の高さは、21.6センチで、砂混じりの赤い陶質で、全体的に、赤い釉薬がかかっています。

この赤色の陶器の壺は、小豚が象られていて、頭部が丸く、尻尾が巻かれています。可愛らしく作られています。これには水や酒を入れることができます。液体は尻尾の前の筒状の口から注ぎ、小豚の注ぎ口から出てくるようになっています。また小豚の背中には取っ手があります。

この壺は趣に溢れつつも、実用性を失っていない実に貴重な芸術品と言ってよいでしょう。

実は、この器の歴史はとても古いんです。大汶口（ダイモンコウ）文化というのは、新石器時代文化に属し、今から6500年前から4500年前までで、約2000年続きました。山東泰安大汶口（タイアンドンコウ）遺跡から名づけました。その分布は、東は黄海に、西は魯西平原の東部に、北は渤海北岸に、南は江蘇淮北にいたります。この地域は中国古籍の中に記載した「少昊氏」（ショウコウシ）文化地域にあたります。大汶口（ダイモンコウ）遺跡から砂混じりの赤い陶器がたくさん発掘されましたが、この紅陶獸形壺が中の一番の精品と評価されています。

次にこの作品と山口県のつながりについてご紹介します。実は1986年、山口県立美術館で、山東省の「大黄河文明展」が開催され、この作品が、「大黄河文明展」の図録の表紙に使われました。当時、この展覧会の入館者は14万人をオーバーしました。この展覧会をきっかけに、山東省と山口県の文化交流が始まりました。今日まで、山口県立萩美術館・浦上記念館で、山東省文物のシリーズ展が9本、山東省に関係する展覧会が5本、開催されました。そして、山口県立萩美術館・浦上記念館の浮世絵展、三輪休雪陶芸展、萩焼展などの名品展が、山東博物館で開催されました。全世界から見ても、地域の文化交流がこのように、継続的に行われているのは珍しいことでしょう。

これからも、山口県と山東省の文化交流が末永く続くことを願っています。

## 山东博物馆之国宝 红陶兽形壶

当大家看到这件可爱的作品时会想到什么呢？这件作品与山口县又有何渊源呢？那么下面就让我们一起来解析这件作品，并探讨它与山口县的渊源吧！

此作品名叫红陶兽形壶，现收藏于山东博物馆，它是大汶口文化时期典型器物之一。1959年出土于山东泰安大汶口遗址。属于山东博物馆十大镇馆之宝之一。此壶高 21.6 厘米，夹砂红陶质，通体施红色陶衣。

这件红色的陶壶被塑造成了小猪的形象，头部浑圆，尾巴上翘，十分可爱。器物可以用来盛水或者酒。液体可以从尾巴前面的筒状口注入，从小猪的嘴巴倒出来。小猪的背上还有一个提梁。这件藏品可谓是一件情趣盎然又不失实用价值的艺术品。

实际上这件作品历史堪称悠久。大汶口文化属新石器时代文化，距今约 6500—4500 年，延续时间约 2000 年左右。因山东省泰安市大汶口遗址而得名。分布地区东至黄海之滨，西至鲁西平原东部，北达渤海南岸，南到江苏淮北一带，基本处于中国古籍中记载的少昊氏文化地区。大汶口文化遗址中出土了不少夹砂红陶，而这件作品是其中的最精品。

那这件作品与山口县又有何渊源呢？实际上，1986 年山口县立美术馆举办了《大黄河文明展》，这件作品的照片被用于此展览的图录封面。当时参观展览的人数超过 14 万人，以此展览为起点，拉开了山东省与山口县文化交流的序幕。截至目前，山东省文物系列展在山口县立萩美术馆·浦上纪念馆已举办 9 次，山东省相关的文物特别展 5 次；山口县立萩美术馆·浦上纪念馆的浮世绘展、三轮休雪陶艺展、萩烧展等名品展也在山东博物馆成功举办过。放眼全世界，山东省与山口县的这种持续性的文化交流很珍贵吧。

今后也希望山东省与山口县的文化交流更加蒸蒸日上！